



ついに完成！
家康公ゆかりのクラフトビール

「発酵とサステナブルな地域社会研究所」(大原志麻 所長: 人文社会科学部・教授)が開発したクラフトビール「家康公CRAFT」の完成披露イベントが行われ、当日用意したビールが完売するなど大盛況となりました。クラフトビールを醸造・販売する産官学共同のプロジェクトが始まったのは昨年10月。酵母探しは困難を極めました。数多の酵母の中から最終的に家康公にゆかりの深い「静岡浅間神社」に生息する「フタバアオイ」の葉から採取した酵母が採用されました。今後もビールを通じて、静岡市と家康公の魅力を伝えていきます。



フタバアオイ 乾杯イベントには大勢の人が来場

フィンランド・オウル大学と
「SDGsサマープログラム」を開催

フィンランドのオウル大学でITを学ぶ学生らを招き、「静岡×減災×ICT」をテーマに英語によるサマープログラムを開催しました。静大生とともにITを用いた減災の実践例等の講義を受講したほか、県内各地を視察し、歴史や環境、文化を体験しながら議論を重ねました。地域の高校生も交えて意見交換し、最終的に「SDGs達成に向けたアクションプラン」として発表を行いました。報告会には、フィンランド大使館、静岡県、静岡市、企業の方々にも参加いただきました。



文部科学大臣表彰「科学技術賞」を2名の教員が受賞

令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、小山真人教授(学院教育学領域)が「科学技術賞(理解増進部門)」を受賞しました。「大地の成り立ちと防災の科学に関する地域住民への普及啓発」の業績が評価されたもので、日詰一幸学長から賞状と記念品が伝達されました。また、須藤智准教授(学院グローバル共創科学領域)は、筑波大学との共同プロジェクト「筑波大学人間系RUみんなの使いやすさラボ」の一環で実施した「コミュニティ活動を介した科学技術と人工物利用の理解増進」(推薦機関: 国立大学法人筑波大学)の業績が評価され、同賞を受賞しました。



日詰学長から賞状を手渡された
小山教授(右から2番目)

研究 PRESS RELEASE

研究成果を発表して報道されたものをご紹介します(2023年3月~7月)

- 佐野吉彦(工学部)「茶葉の未利用成分の抽出・分離濃縮技術を活用 静岡発「ゼロエミッション」モデル構築の取組みを開始」
- 北村晃寿(理学部)「静岡県熱海市逢初川の源頭部の黒色盛土層の放射性セシウム濃度と粒子組成の層位変化」他1件発表
- 森田健(理学部)「量子力学におけるポテンシャル中の粒子の位置とエネルギーの関係性を解明」
- 徳元俊伸(創造技術科学大学院/理学部)「精巣性テラトーマの原因遺伝子を解明」
- 石橋秀巳(理学部)「軽石のナノスケール岩石学から福徳岡ノ場の新しい噴火モデルを提案」
- 古見文一(教育学部)「3~5歳児が顔の一部が隠れた相手の表情をどの程度読み取れるかを解明」
- 塩田真吾(教育学部)「情報セキュリティ啓発教材「ネットの『あやしい』」を見きわめよう(GIGAスクール版)」を共同開発」他2件発表
- 長尾達(農学部)「鉄欠乏条件下で誘導するフィコビリソームと光化学系I複合体の強固な結合」他1件発表
- 狩野芳伸(情報学部)「人工知能学会全国大会で「自然言語処理技術」に関する研究成果を発表」
- 富田誠(理学部)「人体に照射しても安全な「遠紫外線」が最も有効にコロナウイルスの紫外線殺菌効果を有することを実証！」他1件発表
- 宮崎剛亜(グリーン科学技術研究所/農学部)「乳酸菌が作るプレバイオティクス・菌体外多糖を食べる細菌」他1件発表
- 平井浩文(グローバル共創科学部)「白色腐朽菌が好氣的に水素を産生していることを発見！」
- 藤井基貴(教育学部)「Jリーグ・清水エスパルスと協働したスポーツ・インテグリティ教材の実践」他1件発表

アンケートにご協力ください

静岡大学広報誌「SUCCESS」vol.30の誌面に関するWEBアンケートにご協力ください。抽選で10名様に静岡大学キャンパスキャラクター「しずっぴー」のぬいぐるみをプレゼント! 当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。



左記QRコードによりアクセスいただき、WEBにてご回答ください。
応募締切: 2023年12月31日(日)

編集後記

今号では、静岡キャンパスの国際交流ラウンジで活動する学生たちの素敵な笑顔を表紙にしました。撮影日は、ABP留学生の送別会が行われ、演奏や生歌、卒業記念品の授与など盛り沢山の内容で、参加した学生みんなが楽しんでいる様子でした。本誌を通じて学生や本学の活動を知っていただき、一緒に応援いただけたら嬉しいです。



SUCCESS

静岡大学広報誌 サクセス

Shizuoka University
Current affairs &
Connective paper for
Every graduate
Student &
Staff



Autumn 2023

特集

グローバル共創科学部の 新しい学びがSTART!

／学生たちの国際交流を応援!!



静岡キャンパスの国際交流ラウンジ 関連記事は3ページへ!

グローバル共創科学部の新しい学びがSTART!

静岡大学では27年ぶりの新学部。1年生が入学し、授業がスタートしたばかりですが、今後のカリキュラムも気になります。学部の教員や1期生へのインタビューを通して、紹介します。

専門性を発揮しつつ、他者を尊重し、共創できる人を育てたい

一つの課題を解決するとき、さまざまなアプローチ方法があることをこの学部では学んでほしいです。例えば、災害の被害を軽減するためには、災害を予測し土木工学的に対応する

理系の対策もある一方、避難所の運営など多様な人が集まる場では、文系の力も大変重要になります。

私たちが、カリキュラムを考える際に最も意識したのは、自らの専門性を発揮しつつ、多様な立場の人を尊重し、課題の解決のために実働できる人を育てたいということ。それが、学部の名称にもある「共創」です。理系・文系含む専門が異なる教員が一つの授業を担当したり、現場の専門家を招いたり、ユニークな授業をたくさん設定して、そんな人材を育てたいと思っています。

「学びのアドバイザー」が学生1人ひとりをまめ細やかにサポート

本学部は、柔軟に幅広く学べるのが魅力。学びのルートづくりにも選択肢が多く、年4回の面談のほか、随時、相談対応を行う体制を整えています。



グローバル共創科学部 教務委員長(カリキュラム担当) 堂園 俊彦 教授

グローバル共創科学部長 池田 恵子 教授



学生たちに興味がある社会課題について聞きました



貧困問題

貧困問題の解決に向けて、制度やルール作りだけでなく、自分を含めて、個人に何ができるのか、興味があります。

循環型社会

幼い頃、ゴミになると思っていたものが、新しいものに生まれ変わることを知り、資源の循環に興味を持ちました。この学部で深く学びたいです。

日本の食糧問題

高校時代に部活で体づくりをする際、「食」の大切さを学びました。実家が農業を営んでいることもあり、日本の食糧問題に興味があります。

介護の問題 (介護従事者不足)

家族が介護の仕事をしているので、介護現場の人材不足はとても身近な問題です。

持続可能なまちづくり

自分が住んでいる地域の過疎化がどんどん進んでいます。ずっと住み続けたいので、そのためには何が必要か学びたいです。

LGBTQ

中学生の頃に読んだ小説を機に、調べるようになりました。同性婚が認められている国もある中、日本で認められないのはなぜ?と疑問を持つようになりました。

災害問題

熊本地震を経験しました。気候変動による災害も増えています。新学部で問題を多角的に見る力を身につけ、解決の糸口を探りたいです。

第一線で活躍するアーティストと学ぶ「アートシンキング・デザインシンキング」

講師は、岡田利規・金田実生・辻琢磨・吉開菜央・岩井優ら、第一線で活躍しているアーティスト。その発想力に直接触れながら、アートという言葉で思考・発想する方法を学びます。多様な価値観を持つ人々と協働しながら、どれだけ柔軟に発想できるか。あらゆる視点から社会と向き合うアーティストの鋭いまなざしは、ますます複雑化する未来を考えるヒントになることでしょう。

グローバル共創科学部 立花 由美子 講師



© Osamu WATANABE

現場の人々と共創するフィールドワーク

新入生セミナーでは、静岡市内でフィールドワークを行いました。実際に街に出て、現場の関係者とともに社会的課題の解決に向けて協働していく「コラボラティブ・ワークス」が2年生から始まります。その事前学習として、実施しました。



「学生の声」



真壁 陽人さん

フィールドワークを通して、静岡市が商業的に昔から栄えてきたことを知り、魅力を再発見できました。近年、人口減少や商店街の衰退などの課題に直面していることも実感し、今後の学びにつなげたいと思います。

静岡市内でフィールドワークを行う新入生

グローバルに活躍を! 英語は3年前期まで必修

実践的な英語教育に力を入れており、3年生の前期まで必修科目をネイティブ教員が担当します。短期および長期の海外研修プログラムもあります。



木曜午後のクラスアワーではネイティブ教員や留学生と英語で話すイベントを実施



柳原 葉さん

建築家の辻琢磨さんの授業で、「現代建築は、これまで建築家がつけてきた建築の歴史を背負うことだ」という言葉が印象に残っています。ただの「建物」ではなく、建築家が住む人や周りの環境などから良いものとなるようにと工夫を凝らして作った素晴らしい「作品」であることに気づきました。後期は「国際地域社会とダイバーシティ」の授業が楽しみです。現代社会で多様性を尊重するとはどういうことか、考えたいです。

「世界に飛び出せ！」海外留学が再開しました。

コロナ禍で滞っていた海外留学が再開し、交換留学や春季夏季短期留学、語学留学プログラムなどにより、昨年度は39名が留学、今年度は80名を超える予定です。帰国したばかりの学生に体験談を聞きました。

和太鼓で自分らしく交流

丸山 桜 さん

人文社会科学部社会学科3年

留学先: アレクサンドル・イワン・クザ大学 (ルーマニア)

留学期間: 令和4年9月~令和5年7月



大学に入ったら留学をしたいという憧れが元々強く、指導教員に「学部間留学」を勧められたのがきっかけで、自分の専攻の「心理学」を英語で学べる大学に留学しました。和太鼓サークルの一員として、留学先で文化交流をしたいと思い、ルーマニアの皆さんや静岡大学に協力をいただきながら、現地で和太鼓コンサートを実現させました。静岡大学には、学生が自主的に行動を起こすとき、手厚いサポートで背中を押してくれる体制があります。国際課のデスクや留学イベント、指導教員など、相談しながら、目的や希望に合った留学先をぜひ自分から行動して見つけてみてください。素敵な大学ライフ、留学ライフを!



海外留学サポートプログラムを充実させています。

海外留学フェア(年2回春・秋)

「必要な語学力は?」「いつまでにどんな準備が必要?」「費用は?」などの疑問や不安に回答します。留学経験者からの体験談も聞くことができます。



留学プログラム紹介動画公開しています

個別相談

国際課のスタッフや国際連携推進機構の教員が、個別に相談に乗っています。奨学金や語学対策など何でもOK。随時受付中です。



語学支援プログラム

留学先によってはTOEFLスコアが必要な場合もあります。対策のヒントや攻略法などを学ぶTOEFL対策説明会・対策講座を開催しています。



ひろがれ! 静岡大学から世界へ、世界から静岡大学へ 学生たちの国際交流を応援!!

現在、112大学と協定(大学間または部局間協定)を締結し、海外大学とのパートナーシップを構築している静岡大学では、学生たちの生の声とともにご紹介します。学生たちの国際交流をさまざまな形で応援して

まずは 一歩踏み出そう!

平田 夏凜 さん

情報学部情報社会学科3年

留学先: アルバータ大学(カナダ)

留学期間: 令和4年8月~令和5年4月



高校の修学旅行でシンガポールに行き、多民族国家の姿を目の当たりにして、大学での留学を決意しました。留学先では新しい学問分野を専攻したため大変でしたが、夜遅くまで勉強に励む友人と切磋琢磨して乗り越えることができました。世界中から来た学生と出会う中で、英語はあくまでもツールに過ぎず、それを自分の目標や夢の達成にどう活かすか考えることが重要だと感じました。将来は日本の多文化共生に関わる仕事に就きたいです。学生のみなさん、少しでも興味があったら、まずは一歩踏み出すことです。いろんな不安は全部どうにかになります!



大学のスポーツプログラムの一環で、アイスホッケーを体験

海外から400人以上の留学生が学んでいます。

海外からもたくさんの留学生が静岡大学に学びに来ており、キャンパス内では、授業や研究室、部活動などで、日常的に国際交流の機会が生まれています。

留学生をサポートするメニューも充実!

留学生を日本人学生や留学生の先輩学生がサポートしています。日本語の会話練習や書類の説明、レポートの日本語添削、勉強や生活の相談など多様なニーズに対応。授業期間中は週2~3回の割合で相談対応しています。

浜松キャンパスの日本語サポートデスク



キャンパス内で 世界各国の仲間ができる! 国際交流ラウンジ

国際交流ラウンジは、静岡キャンパスと浜松キャンパスともに、授業期間中は毎日10時~17時まで自由に利用できるように開放しています。ランチを食べたり、歓談したり、海外留学をしなくても、普段の生活の中で国際交流ができるスペースです。

交流イベントも たくさん実施しています

学生スタッフがイベントの企画運営に関わり、趣味や恋愛、食文化などさまざまなトピックについて話したり、ダンスやゲーム、スポーツを楽しんだり、趣向を凝らしたイベントが数多く開催されています。

留学生やネイティブ教員が 英語学習をサポート!

英語が堪能な留学生が進行役となって、ゲームやカジュアルな英会話を楽しむイベントを開催。授業とは異なり、リラックスした雰囲気の中で英語力を鍛えることができます。ネイティブ教員による英会話レッスンEnglish Loungeも留学希望者に人気です。



国際交流ラウンジのイベントで いろんな国の仲間と出会えた

チュオン・ヴァン・ラム さん (Truong Van Lam)

情報学部情報科学科3年

出身国: ベトナム



留学前は少し不安でしたが、ラウンジでいろんな国の仲間と出会い、温かい雰囲気の中で自分を受け入れてもらえることを感じました。楽しい交流イベントで新たな世界を広げる経験ができます。異文化に興味のある学生にぜひお勧めします!

静岡大学の 研究フェローたち



「研究フェロー」「若手重点研究者」の
ウェブサイトがリニューアルしました!



私が研究するリプロダクションとは、マクロ的というと人口の再生産、ミクロ的というと産み育てのことです。人工妊娠中絶や不妊、出産、産後の養生など、産み育てのさまざまな局面について、時代や社会、テクノロジーによる変化、国や法制度、宗教、文化などによる差異や共通点を調査しています。例えば、アジアでは生命を「救う」ためではなく「選ぶ」ためのテクノロジーとして生殖技術、出生前検査などが用いられている地域があります。代理出産や卵子提供などの生殖ツーリズムにも課題が指摘されており、リプロダクションを縦軸、横軸から社会的に研究しています。

古今東西のリプロダクションを 社会学から捉える

白井 千晶 SHIRAI Chiaki

人文社会科学部 社会学科 教授



教員ウェブサイト



リプロダクションから古今東西を見ると、身体観や生命観、ジェンダー、家族などが写し取れて「いま生きている社会と関わっている」と実感! 広がりや深まりが魅力です。



航空機・自動車やインフラ機器に実用されている金属製品。産業界では、その破壊・破損の防止が重要課題となっています。事故に直結し、時にヒトの命を奪うこともあるからです。破壊を防ぐポイントは、金属表面のマイクロ組織をいかに改質するか、です。本研究では、主な破壊要因である金属疲労を防ぐため、ひと工夫した粉末を高速で金属に打ち付けて、加熱せずとも熱処理の効果を生み出す表面改質技術を開発しました。また、多機能金属材料を創製するための指針作りにも取り組んでいます。壊れるメカニズムを知っているからこそ、壊れないモノを生み出すことができるのです。

「壊れる」の メカニズムを探る

菊池 将一 KIKUCHI Shoichi

工学部 機械工学科 准教授



教員ウェブサイト

「破壊」と聞くとネガティブなイメージを持たれがちですが、私たちは、むしろ「破壊をなくしてやろう!」という意気込みで、ポジティブに破壊研究に臨んでいます!

豊かで持続的な未来社会のため、脱炭素化とカーボンニュートラルを実現する画期的な触媒変換プロセスを開発しています。具体的には、産業分野から排出されるCO₂をそのまま大量に、かつ瞬間的にCH₄(メタン)に変える触媒反応プロセスです。従来技術ではなし得ない高い触媒機能性を発揮します。また、CO₂から製造したCH₄はガス燃料として使えますが、燃やすと再びCO₂になるため、CH₄とCO₂(ともに温室効果ガス)を同時に反応させて大量の固体カーボンと有用な化学原料(合成ガス:H₂+CO)を製造することに成功しました。COP26における我国の約束宣言に貢献するオンリーワンな技術です。

カーボンニュートラルに貢献する 触媒変換プロセスの開拓

福原 長寿 FUKUHARA Choji

工学部 化学バイオ工学科 教授



教員ウェブサイト



開発した技術には、新しい学際領域になり得る学術知見が多く含まれています。現象の精査と理論構築を行いつつ、社会実装化と次世代への継承に注力していきます。



地球温暖化や環境汚染などの問題を解決するために、シイタケやヒラタケ、エリンギなど身近な食用キノコの仲間である「白色腐朽菌」を使って研究を行っています。白色腐朽菌は、木材の細胞壁に堆積して木材を強固にしているリグニンという難分解性高分子を、唯一分解できる微生物で、自然界では「木材の分解者」として重要な役割を担っています。この能力を活用して、木材を原料とするバイオ燃料(エタノールや水素など)やプラスチック原料の産生(バイオリファイナリー)、難分解性の環境汚染物質の分解・無毒化(バイオレメディエーション)などに取り組んでいます。

白色腐朽菌の チカラを活かして

平井 浩文 HIRAI Hirofumi

グローバル共創科学部 グローバル共創科学科 教授



教員ウェブサイト

環境に優しい生体触媒「白色腐朽菌」は、まさに地球の救世主。そのユニークな能力を活かし、バイオリファイナリーとバイオレメディエーションの実現を目指します。

生体膜や脂質膜の機能やダイナミクスの素過程、それらのメカニズムや設計原理を明らかにする研究を行っています。従来の研究で用いられていた生物物理的測定法では、生体膜や脂質膜が形成する小さな直径のリポソーム(袋状の構造)の集団の平均的なふるまいは把握できましたが、個々のふるまいはよくわかりませんでした。そこで、新たな測定法「単一巨大リポソーム法(単一GUV法)」を開発し、種々の物質とリポソームが相互作用しているときのリポソーム一つひとつのふるまいの可視化に成功。統計的な解析によりそれらの素過程の情報を得ることができました。

単一巨大リポソーム法を 新たに開発

山崎 昌一 YAMAZAKI Masahito

理学部 物理学科 教授



教員ウェブサイト



従来の研究方法にとらわれな
い、新しい視点や質を持った
研究方法を開発して、研究対
象の未開領域の探索やメカニ
ズムの解明につなげていきま
せんか?

演劇の可能性への挑戦

みやぎしま はるか
宮城嶋 遥加さん

人文社会科学部 言語文化学科
(2017年3月卒)

SPAC・静岡県舞台芸術センター 所属 (舞台俳優)

1994年生まれ、静岡県立清水南高等学校卒
趣味はヨガ。好きな言葉は「人生は演劇だ」。



撮影 芹澤真武

人文社会科学部の授業や研究に心惹かれて

静岡市で生まれ育ち、大学生活は馴染みの深い土地で過ごしたいと思いました。中高生の頃から関わっていたSPAC(Shizuoka Performing Arts Center)の劇場に、ずっと関わり続けたいと思い、静岡大学に入学しました。人文社会科学部には心惹かれる授業や研究が多く、俳優になった今も、様々な文学作品を舞台化する際に、授業を思い出し、よくノートを引っ張り出したりしています。

ダンス部で出会ったかけがえのない仲間たち

在学中はダンス部に所属していました。全国大会に向け、汗と涙を流して練習に励んだり、みんなで遠征旅行に行ったりしたことはかけがえのない思い出です。何より、仲間とともに何かを創り上げることの難しさ、それにも増す喜びを経験できたことはとても貴重でした。俳優として身体表現やダンスの経験を評価していただくことも多々あります。



在学中に演じたジュリエット役が転機に



舞台俳優の道に進むきっかけは、静岡大学在学中に芸術総監督から「ロミオとジュリエット」のジュリエット役をオファーいただいたことです。大学の先生方や友達にもたくさん応援していただき、稽古や本番の日々を重ねる中で、もっと演劇について知りたいという気持ちが強くなっていきました。

「演劇」という表現の可能性を広げたい

この仕事の一番のやりがいは、劇場に来てくださるお客様、演劇のワークショップや授業に参加してくれる子どもたち、海外で出逢うアーティストさんたちなど、様々な出会いがあることです。「演劇」という表現にどんな可能性があるのか、従来の方法とは異なる表現でどんなイノベーションが起これるのか、今後も挑戦し続けたいです。



「自分の関心事は積極的に調べる」を今も大切に

今、フランスで演劇の仕事をする際に、自分の中で指針のような存在となっているのが、卒業論文で取り組んだ「日仏演劇交流に関する研究」です。親身になって対応してくださった先生方から「自分の関心事のあることは積極的に調べて学んでみる」という最も大切な姿勢を学ばせていただきました。学生さんには大学生活でしか学べないことを思いっきり楽しんでほしいです。卒業生として、静大生の活躍をいつも応援しています。



宮城嶋さんが学んだ人文社会科学部について、くわしくはこちらから →



IoTで暮らしを便利にしたい

かわせ ゆうや
川瀬 雄也さん

情報学部 総合科学技術研究科情報学専攻
(2020年3月卒)

株式会社 野村総合研究所 勤務
(システムエンジニア/技術調査員)

1995年生まれ、愛知県立安城東高等学校卒
趣味は「IoT製品の調査・試用」。好きな言葉は「先手必勝」。

「情報学」に強い静大へ

静岡大学情報学部は、国立大学では初めて設置された情報学を専門とする学部で、2年生からコースを選んで進学でき、入学後に自分の興味に合わせて進路を決められることに魅力を感じました。研究室で教授や先輩、後輩に刺激を受けながら実施したプログラミングや論文執筆、ビジネスアイデアの創出もすべてが今の自分の仕事に活かしています。



大学卒業の送別会は、今でも良い思い出です

最先端の技術に触れながら働いています



会社の同期と旅行へ

IoTの技術やシステムに興味を持っていたため、最先端の技術に触れながら、自分自身がワクワクしながら働きたいと考え、システムエンジニアの職を選びました。現在はお客様のビジネスに役立つような最新技術(ソフトウェアなど)の調査・報告やシステムを効率的なアーキテクチャに作り替える業務に従事しています。

資格取得や新たな活動にも挑戦

IT技術の先進的な変化に業務を通して携われることや、お客様に喜んでもらえるような調査結果やシステム開発ができたときにやりがいを感じます。現在の業務では、AWS(アマゾンウェブサービス)やGoogle Cloudといった技術について資格取得を進めています。今後

は社外の勉強会などにも登壇し、自分自身のバイネームでの評価を得られるようにコミュニティでアクティブに活動したいです。



AWSの資格をコンプリートし、AWS SUMMITに参加しました

学生時代に仲間たちと始めたbot作成

研究室のメンバー間で「ちょっと便利なものを作ろう」と話して始めたbot作成は、今でもダイレクトに自分の生活をちょっと便利にしてくれています。情報学部の友人の多くがIT系の企業に勤めており、浜松キャンパスには工学部もあるので、学生時代の友人を集めたら一つの事業を始められるのでは?とつい期待してしまいます。

とりあえずやってみよう!

学生時代に打ち込んだことや勉強したことは、自分が思っていたよりも役立つ機会がありました。学生さんには、役立つかもしれないから一応やっておく、という「とりあえずやってみる」マインドを持ってほしいです。そして大学には、今後も情報学部のプレゼンスを発揮し続けることを期待しています。



富士登山にも挑戦しました



川瀬さんが学んだ情報学部、総合科学技術研究科情報学専攻について、くわしくはこちらから →

部活動、研究、地域との連携...
静岡大学にはそれぞれの場所で
挑戦を続ける学生がたくさんいます。
そんな『輝く静大生』を一挙ご紹介します。

見つけた! 輝く静大生

「何度も挫折したが努力が報われた」
弓道部、
全国大学弓道選抜出場!



弓道部が全国大学弓道選抜大会に出場。全国の強豪校との戦いを経験した保科洋輝さん(情報学部3年)は「学業と部活動の両立に苦労したが、この大会で“四射三中”できたことでこれまでの努力が報われた」と語りました。練習の成果を本番でいかに発揮するかー 明確になった次への課題を胸にリーグ戦に臨みます。

化学技術イノベーション推進に貢献

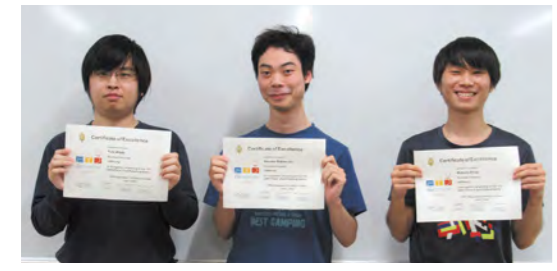
シンポジウムで
「ポスター賞」受賞



桂川大渡さん(理学専攻2年)が、第12回JACI/GSC(グリーン・サステナブル・ケミストリー)シンポジウムで、140件ものポスター発表の中から「GSCポスター賞」を獲得!桂川さんは「より自分の研究に自信を持てた」と喜びを語るとともに、指導教員の守谷誠准教授や研究室メンバーに感謝の言葉を伝えました。

サークル「SZPP」のメンバーが

プログラミング国際大会の
予選突破!



国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)の国内予選で、プログラミングサークル「SZPP」に所属する[写真左より]和田悠汰さん(工学部4年)、中村光伴さん(情報学部4年)、庄司真帆人さん(同学部1年)のチームが入賞しました。参加した300チームが凌ぎを削る中、アジア地区横浜大会への出場権を獲得したのは50チームのみです!「SZPP」は、コンテストへの参加や中高生を対象としたプログラミング講座の開催など精力的に活動中です!

情報学部 杉山研究室が4年かけて制作

「天浜線フォント」
完全版をリリース



天浜線
フォント
ダウンロード

ようこそあおぞら きみ
浜名湖においでよ ぶん

情報学部 杉山研究室の学生が約4年かけて制作してきた「天浜線フォント」の完全版(ver.3)がついに完成!天浜線フォントは、静岡県西部を走る天竜浜名湖鉄道(天浜線)の駅名看板に使われた温もりあふれる手書き文字を、使いやすいデジタルフォントに仕上げたもの。天浜線フォントの魅力「丸み×手書き感」をあなたも感じてみてくださいね!

イメージセンサーに特化した世界最大の

技術フォーラムで
留学生在受賞!



Pham N Anhさん(工学専攻2年/香川研究室)がイメージセンサーに特化した世界最大の技術フォーラムIISW2023で“Best Poster Award (1st Place)”を受賞!世界中の企業・大学等から選ばれた第一線の専門家が集う場での快挙です。

軽自動車税種別割納税推進ポスターで

静岡市役所の
啓発活動に貢献!



教育学部 川原崎研究室の増元明日菜さん(地域創造学環4年:写真中央)が作成したポスターが「令和5年度軽自動車税種別割納税推進ポスター」に採用され、静岡市内の駅や公共施設、自治会の掲示板など約1,800か所に掲示されました。納付期限の日付を大きく表示し、「忘れずに納めましょう」と呼びかけています。また、4名の学生の作品も啓発品の静岡市産の緑茶を使った煎茶パックのデザインに採用され、広く配布されました。



静岡市役所でプレゼンテーションを実施しました



ポスターに採用された増元さんの作品

フライングディスク部「GRANZ」鈴木さん

アルティメットの
日本代表メンバーに



フライングディスク部「GLANZ」所属の鈴木茜さん(教育学部4年)がWFDF2023世界U-24アルティメット選手権大会のミックス部門で、日本代表メンバーとして出場しました!外国人選手との体格差もある中、「どうしたら自分の長所を活かされるか」を見極め、見事「3位・銅メダル」を獲得しました。世界大会出場は、両親・監督・チームメイトなどたくさんの応援のもとに成し遂げられたもの。“この貴重な経験を次の後輩たちへ” 鈴木さんの挑戦は続きます。

東海インカレで優勝&準優勝

陸上競技部
「インカレ」出場権獲得!

東海インカレで、女子3000m障害の小名陽日さん(地域創造学環3年:写真右)が「優勝」、女子10000m競歩の井上香里さん(教育学部4年)が「2位」を勝ち取り、インカレ(日本学生陸上競技対校選手権大会)への出場権を獲得。集大成となるインカレで、上位入賞を目指します!



およそ30年ぶりの快挙!

将棋部が
中部学生将棋団体戦で優勝



将棋部が春季中部学生将棋団体戦で約30年ぶりに優勝!全国大学対抗将棋大会への出場を決めました。静岡・浜松と離れた場所での練習は苦勞の連続。オンライン対局や各々棋力向上に励むことで着実に力をつけ、当日は皆「仕上がった」状態で優勝を勝ち取りました。全国でも臆せず、中部代表として勝ちに行きます!

「高齢者の居場所づくりに大切なことは？」

論文を
査読付き学会誌に発表



農学部 松本研究室の学生は、松崎町の高齢者らで作る企業組合「であい村 蔵ら」による高齢者の居場所づくり活動を約4年かけて調査し、論文を発表しました。リーダーの中込光穂さん(農学専攻2年)が研究成果を報告。論文は査読付き学会誌に掲載され、過疎化に悩む多くの地域で活用できると高く評価されています。

教育学部 美術教育専修 高橋研究室

私たちの研究室では、小・中・高等学校や特別支援学校などの図画工作科や美術科の実態や課題を探り、造形・美術教育の意義を考えながら、実践研究や理論研究に取り組んでいます。また、社会でのアート役割についても、学内外の様々な人と連携しながら実践を通して学んでいます。人々が互いに関わり合い、豊かな生活や社会を共に創造するために、教育やアートが果たす役割を追究しています。



高橋智子准教授



高橋研究室へようこそ！

障害のある児童生徒の図画工作科及び美術科における表現や鑑賞に関する題材研究や指導支援などの在り方について研究しています。大学や学校(小・中・高・特別支援学校など)や地域との協働を通して、美術科教育の在り方を模索しています。これまで、院内学級に在籍する子、知的障害のある子、肢体不自由のある子など、様々な実態の子どもの図画工作科や美術科の授業研究に取り組んでいます。

もっと知りたいゼミのこと…

【ゼミの内容】

- ・論文分析および執筆
- ・造形美術教育の研究課題発表
- ・教育関連のニュース分析
- ・プロジェクトの企画及び実践 など

静岡県立美術館に行ってきました！



【ゼミの課外活動】

- ・美術館巡り
- ・バスケットボールやバドミントンなどのスポーツ活動
- ・他のゼミ生との交流

素敵な作品を鑑賞して、ゼミ生と感想を共有しました。



【卒業研究のテーマ】

- ・障害のある児童生徒を対象とした鑑賞教育に関する研究
- ・図画工作科や美術科におけるICTの効果的な活用に関する研究
- ・図画工作科や美術科における協働性を意識した美術教育活動に関する研究
- ・図画工作科や美術科と他教科の教科等横断的な題材開発に関する研究 など

卒業生の進路

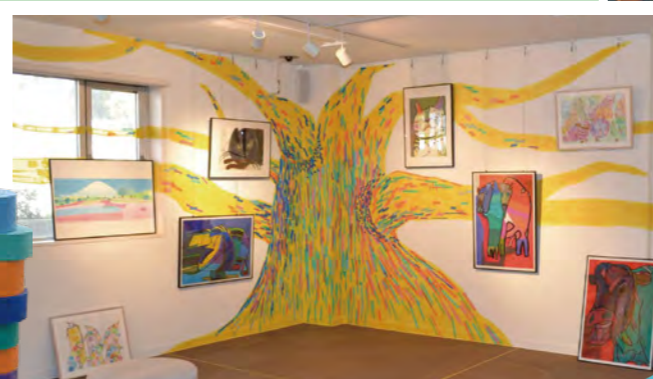
- ・小学校教員
- ・中学校教員
- ・特別支援学校教員
- ・大学院進学
- ・公務員
- ・一般企業 など

目に見える「もの」や見えない「こと」
アートがひとをつなぎ、共に想像し創造する



他者との協働による作品展の企画及び実施

障害のある方々や関係者と連携・協働した作品展の企画や実施に取り組んでいます。アートを通してお互いの存在を認めつつ、ともに作り出す豊かな日常や共生社会の形成への考えを深めています。



みんなで力を合わせて考えた作品展を通して、協働することの意義を改めて考えました。



病院でのアートプロジェクト



待合室に絵を描いたり、診察の待ち時間に遊べるゲーム(間違い探しなど)の開発や提案をしたりして、子どもが安心できる空間や方法を研究しています。

特別支援学校と連携した題材開発



先生方と連携して、生徒の実態にあった題材開発や研究を行い、授業実践に取り組んでいます。ともに表現や鑑賞活動を行いながら、開発した題材の成果や課題を考察します。

附属特別支援学校の生徒の皆さんとタブレット端末を活用して、学校キャラクターのイラスト作成に挑戦しました。



卒業生との交流

定期的に様々な職種の卒業生との交流会を実施しています。先輩との交流を通して、働き方や生き方を知り、自分の将来についてイメージしたり考えたりするきっかけにしています。

現場教員の研究会や研修への参加

学校現場で実施されている研究会や研修に参加して、現場の先生方とともに図工・美術の授業についての学びを深めています。



富士山登山にも挑戦し、充実した留学生生活を送ったアデさん

Vol.5

環境保全で 持続可能な社会に貢献したい

イプトゥ アデ リアン ワルテリカ(インドネシア出身)

工学部機械工学科(2022年卒業)

2022年10月より株式会社ユニバンス・エンジニア 勤務

子どもの頃、父に星座を教えてもらったことがきっかけで宇宙に憧れ、宇宙エレベーターなど最先端の宇宙の研究を推進している静岡大学に留学を決めました。在学中は、環境工学の授業で環境に役立つ研究に興味を持ち、「海水中に浮遊したマイクロプラスチックを泡で浮かせることにより回収を容易にする研究」に励みました。

また、東南アジアセミナーに参加

して、日本の技能実習制度をはじめ、各国の移住制度を比較して議論するなど、様々な国の学生と活発に交流しました。多様な文化への理解を深めることで、グローバルな思考力を身に付けることができました。

現在は自動車部品の設計に携わっています。将来は、日本とインドネシアの古くからの環境保全と現代技術を融合させ、持続可能な社会に直接貢献できる起業に挑戦したいです。



お祈りの供え物「チャナン」



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様への感謝を込めて、活動をご報告します。



静岡大学では、持続可能な社会の実現を目指し、社会課題に多面的・戦略的にアプローチしています。今回は、日本一の茶どころである静岡ならではの取り組みをご紹介します。

本研究に関するSDGsのロゴ



分析用にお茶をサンプリング



様々な土壌検体のデータを分析しています

作物の生産性と持続可能性のトレードオフを探る ～SDGsな茶栽培を目指して～

農学部応用生命科学科 山下寛人 助教

公的機関の試験茶園や生産者が独自に管理する有機栽培茶園を中心に、様々な土壌や管理体系から、作物の生育・品質、土壌の化学成分、微生物プロファイルなどのビッグデータを取得・解析することで、茶園の「ありのままの姿」を可視化することに挑戦しています。

茶は永年生樹木であるため、高品質な新芽を収穫するためには樹体や土壌の状態管理が必須ですが、未だその管理は生産者の経験や熟練の技術に依存しています。

日本に伝統的な茶生産技術を持続可能な農法として維持していくためにも、伝統農法や篤農家が有する茶園土壌管理のノウハウを市民参加型で見える化し、次世代に継承可能な技術として確立する基盤づくりを行っています。

静岡大学未来創成基金寄附者芳名一覧

教育・研究・社会連携を推進する財政基盤を強化するため、平成24年度に創設した基金です。

ご寄附をいただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

〔個人〕	相羽 英雄 様 有川 寛 様 岩原 滋利 様 小粥 市郎 様 陰山 明典 様 木村 真也 様 近藤 康幸 様 鈴木 志郎 様 竹内 章一郎 様 寺崎 玲香 様 中村 靖彦 様 服部 忠信 様 藤井 裕子 様 本多 和司 様 松島 弘美 様 水野 康 様 山城 宏之 様 葉 哲正 様 渡辺 猛 様	青島 明日香 様 池野谷 浩由 様 牛田 貴博 様 岡田 次弘 様 柏瀬 祥一 様 木村 芳明 様 柴田 ひさ 様 鈴木 秀明 様 竹内 精一 様 中井 茂 様 中安 清夫 様 原 恵三 様 藤田 裕光 様 前田 和敬 様 松本 悠生 様 望月 章吾 様 山城 良真 様 横手 裕治 様	青島 大太郎 様 磯部 宅司 様 内方 正巳 様 岡本 充司 様 片橋 靖 様 金原 茂美 様 柴山 泉 様 鈴木 博 様 竹本 智郁子 様 中澤 一治 様 名波 則路 様 平木 大輔 様 藤田 茉奈 様 前田 洋一 様 松山 雅哉 様 元持 一男 様 山田 耕史 様 吉岡 一志 様	赤堀 修一 様 井出 あゆみ 様 浦谷 裕子 様 奥山 恵理子 様 加茂 比呂夫 様 久野 勉 様 朱 明威 様 高角 俊夫 様 龍山 智榮 様 中村 捷二 様 名波 誠致 様 平子 文代 様 古橋 衛 様 松浦 勝 様 三重野 哲 様 森下 義明 様 山本 一馬 様 吉田 裕也 様	渥美 雅之 様 伊藤 誠一 様 江口 辰彦 様 尾崎 勝也 様 菊池 直 様 小山 和紀 様 杉山 一統 様 高野 泰 様 田中 良憲 様 中村 徹 様 野中 大史 様 平野 孝雄 様 細田 徹 様 松岡 薫 様 三垣 文彦 様 森田 和光 様 山本 憲 様 吉山 憲昭 様	新井 葉子 様 伊東 孝之 様 榎本 隆一 様 尾張 正樹 様 北澤 良智 様 小山 芳明 様 杉山 祐介 様 高橋 憲司 様 塚田 智隆 様 中村 弘 様 蓮池 康彦 様 藤井 俊公 様 堀 雅博 様 松下 寿美子 様 山谷 忠仁 様 山下 智司 様 山本 正行 様 ライオン 優子 様
------	--	--	---	---	--	---

(以上 五十音順)

〔法人等〕	国本工業株式会社 様 浜松工業会北九州支部 様 浜松工業会湘南支部 様	株式会社アイ電子工業 様 株式会社ベルソニカ 様 NSKワナー株式会社 様	浜松工業会沼津支部 様 静岡大学教職員同窓会 様 白井国際産業株式会社 様	三菱電機株式会社 様 日本中央競馬会 様 附属浜松中学校46回卒業生一同 様
-------	---	---	---	--

※ご芳名は、原則令和5年2月1日から令和5年7月31日までの間にご寄附いただき、公開についてご承諾いただきました方について掲載しております。なお一部、クレジット等含め入金日より、前回掲載分に間に合わなかった方々もあわせて掲載しております。
※大学へご寄附いただいた方への感謝の意の表明として、広報誌「SUCCESS」へ芳名を掲載してきましたが、今号で掲載を終了させていただきます。今後は、静岡大学未来創成基金ウェブサイトに掲載いたします。詳しくは、右記QRコードよりご確認ください。



未来創成基金
ウェブサイト
寄附者のご芳名

ウクライナ協定校学生の受入れ支援のお願い

ロシア軍のウクライナ侵攻に伴い、学業や研究活動を継続することが困難な大学生および大学院生を交換留学生として受入れ生活支援を行うことで、学業や研究を継続できる環境を提供します。



ウクライナで1年ほど日本語を勉強していたため、日本に馴染みがあったOlehさん

学生からの感謝の声

静岡大学では主に日本語を学び、写真部に所属し活動したり、日本語と英語を学ぶために国際交流ラウンジのイベントにも参加しています。現在は浜松市に住んでいますが、穏やかに住みやすいです。ご支援いただきありがとうございます。感謝しています。この支援なしに私は日本に来ることはできませんでした。一刻も早くこの侵攻が終わり、平和が訪れることを望みます。

情報学部 3年 Oleh Statkevych さん
(National Technical University of Ukraine
"Igor Sikorsky Kyiv Polytechnic Institute")

支援内容

本学と大学間交流協定を締結している2つの大学(タラス・シェフチェンコ・キーウ国立大学及びウクライナ国立技術大学)に在籍する学生を、交換留学プログラムにより受入れ、渡航費、生活費等を支援します。受入れ数は各大学2名まで(協定学生数)を予定しています。授業料は協定により免除となるため、渡航費、生活費等を本基金により支援します。

寄附方法

- ・インターネットからお申込みの場合
未来創成基金ウェブサイトより、「大学運営全般」をご選択のうえお申込みください。
- ・ゆうちょ銀行、郵便局、三井住友銀行窓口からお申込みの場合
払込取扱票の「寄附目的」「大学運営全般」をご選択ください。お手元に払込取扱票がない場合は、お手数ですが、静岡大学 広報・基金課基金係までお問い合わせください。

今後とも温かいご支援をお願いいたします

未来創成基金へのご寄附は、郵便振替やインターネットからのお申込み(クレジットカード・コンビニ決済等)をご利用いただけます。くわしくはウェブサイトをご覧ください。

静岡大学未来創成基金ウェブサイト

<https://kikin.adb.shizuoka.ac.jp/>

静岡大学広報・基金課 基金係 / 電話:054-238-5183 E-mail:kikin@adb.shizuoka.ac.jp

